

## 認知症の人の「一人歩き」と介護保険

認知症から起きる行動の中でも、「一人歩き」は行方不明になったり事故に巻き込まれることがしばしば起き、近年は地域ぐるみで「声かけ模擬訓練」なども行われるようになりました。新座市内で「迷い人のお知らせ」が放送されると、「えんの利用者さんでは」と耳を澄ますこととなります。実際、利用者さんの捜索に私自身も何度か参加したことがあります。幸い皆さん無事に発見されました。

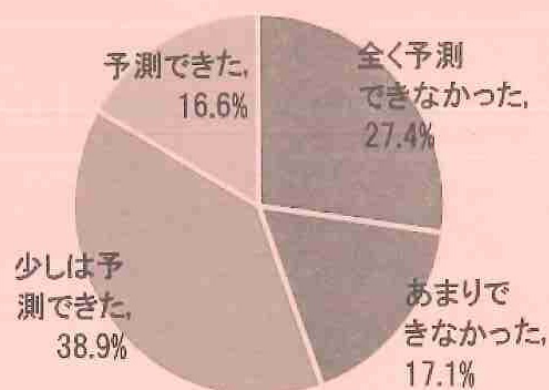
課題のひとつは、この行動が頻繁になる時期に介護保険サービスが十分に利用できないことです。下の表にあるように、要介護状態と「一人歩き」行動は一致しません。始まるのは介護保険の認定を受けていない「未認定」の時が最も多いのです。そして要介護3までにはほぼ終息しています。始まったころの段階が未認定の時期なのは、独居や老老世帯で介護申請されない、あるいは「もしかしたら？」と置いていたら突然行方不明になって、といったことなのでしょう。

家族が行方不明になるのはつらい。家族が真冬に一昼夜行方不明になった経験がある知人は、それ以来始終 GPS で位置確認をしています。しかし「からだが動く時期の認知症」は要介護認定が低くなりがちです。特養ホームの入居申し込みが原則として可能になるのはこの行動がほぼ終息する要介護3以上。それまで自宅で介護となると、本人、家族にとってたいへんな負担です。

介護保険は身体介護モデル(寝たきりモデルとも)で作られていることがこうした問題を引き起こしています。今はサービス利用理由の一位が認知症になりました。予防できない、決定的な治療もまだないというのに、認知症患者がすでに730万人、ピークの2060年には1154万人にもなるというのですから、一日も早く認知症に適した介護保険制度に作り替えなければ、認知症のある方と家族が救われません。誰もがなりうる病気で、だれもがその家族になる可能性があるのですから、すべての人の課題なのです。

「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査」(2018年)より

要介護度	始まったころの段階		終息したころの段階	
未認定	118	30.2%	0	0.0%
要介護1	106	27.1%	13	6.2%
要介護2	113	28.9%	59	28.1%
要介護3	46	11.8%	95	45.2%
要介護4	7	1.8%	28	13.3%
要介護5	1	0.3%	15	7.1%
集計	391		210	



(暮らしネット・えん代表理事／小島美里)